

読売新聞

2009年(平成21年)

7月4日 土曜日

第
142
号

発行所 読売新聞西部本社 〒810-8581 福岡市中央区赤坂1-16-5 電話(092)715-4311(代) www.yomiuri.co.jp

美味しい酒に育て 50人田植え



田植えを楽しむ参加者たち

福岡市や糸島地区を中心に蔵元や小売店、農家、消費者でつくる「美味しい酒づくりの会」(木原満一代表)は6月14日、前原市飯原の雉琴神社近くの田んぼで、会員やその知人ら約50人が参加して、20回目となる田植えを実施した。秋に収穫し、来年3月には会員の蔵元で造った純米吟醸酒「可也」を送り出す。

前原で蔵元・小売店・農家・消費者

来春には純米吟醸酒「可也」に



純米吟醸酒「可也」

かわらばん

福岡西部

中央区 城南区 早良区
西区 前原市 二丈町
志摩町

かわらばん編集室

読売新聞西部本社内
電話 092-715-6442
=平日
FAX 092-715-6443
Eメール

s-kawara@yomiuri.com
ニュースや情報をお
寄せ下さい。最寄りの
読売センターにもご連
絡下さい。

*掲載写真を差し上げます
かわらばんに掲載された写
真(提供写真を除く)をブレ
ゼントします。申し込みは最
寄りの読売センターへ。読売
センターからお届けします。
申し込みは写っている本人ま
たはご家族に限り、枚数は制
限する場合があります。

交流会ではアマバンド演奏

復活させたのをきっかけ
に「酒を造る人、売る人、
(也)」という気
飲む人の思いが伝わる酒
を造ろう」と発足。以来、
会員らは田植えや稻刈
り、吟醸酒「繁栄」で知
られる八女市の高橋商店
で酒造りを体験するイベ
ントを行っている。

「可也」は形が富士山に
似ていることから、地元
で「糸島富士」と呼ばれる
志摩町の可也山にちなんで
命名。「あらゆる『可能』

を植えたのは高齢化など
で耕作を断念した農家が
借りた約18haの田ん
ぼ。参加者は波多江さん
の指導で、田んぼの両端
から張られたひもで、苗
を植える場所を確かめな
がら、約1時間かけて手

植えした。その後、同神
社に隣接する飯原公民館
で交流会が開かれ、無農
薬米のおいしさや新鮮な
野菜を使った料理を食べ
ながら、「可也」を楽し
んだ。筑後市のアマチュ
アバンドもゲスト出演
し、場を盛り上げた。

参加した福岡市西区野
・5764)へ。

イーゼルアドベンチャー」
はBDFを作りながら、世
界を走るプロジェクトで、
山田さんは2007年12
月、BDF精製機を積んだ
四輪駆動車で出発。アメリ
カ、ポルトガル、モロッコ、
ロシアなど17か国を巡り、
世界各地で廃油を集めなが
ら、総走行距離約4万80
00kmを走破し、08年に帰
国した。現在は全国各地の
環境問題に取り組む人たち
と交流しながら、日本一周
の旅を続けている。イムズ
はエコをテーマに様々な取
り組みを展開しており、山
田さんのプロジェクトと共に
鳴し、イベントが実現した。

使用済みの食用油を精製
したバイオディーゼル燃料
(BDF)を使う自動車で
日本一周中のフォトジャ
ーナリスト、山田周生さん
(51)(東京都在住)を迎え、
身近な部分から地球環境を
考えるイベント「バイオデ
ィーゼルアドベンチャー」
が6月19、20の両日、福岡
市中央区天神のイムズで開
かれた。

BDFは軽油に代わる燃
料として使え、二酸化炭素
も削減でき、環境に優しい
燃料とされる。「バイオデ



フォトジャーナリストの山田周生さんとバイオディーゼルカー

天神に日本一周バイオ車

会場にはBDF精製機を
搭載した車両の展示をはじ
め、BDF精製の実演、プロ
ジェクトで出会った人々
に描いてもらつた「未来
の地球にメッセージ」を展
示し、山田さんによるト
クショードも行われ、地球環
境の大切さを訴えた。

山田さんは「いろんな方
と交流して、未来について
どう考えているのかを知り
たい」と話し、環境問題へ
の取り組みについて「僕
は僕ができることをやって
いる。自分ができるスタン
スで何かを始めたらしいの

アマチュアバンドも登場
した田植え後の交流会

方の佐藤邦子さん(58)は
「田植えや稻刈り、酒造
りとすばらしい経験がで
きるし、何よりも世代を
超えた交流が楽しい」と
話し、初めて参加した大
野城市の中島ひとみさん
(41)と炭吉裕子さん(39)
は「すくすく育つて私たち
のおいしいお酒になっ
てね」と笑顔を見せた。
「雄町」だけを使つた
「可也」は1・8ℓ瓶で
1500本、「雄町」と
他の品種を合わせたもの
を同2500本製造する
予定で、木原代表は「皆
さんの後押しがあって、
20年間続けることができ
た。また、来年も田植え
が出来るよう頑張りた
い」と意気込んでいた。
稻刈りや酒造りは参加自
由で、問い合わせはきは
ら商店(092-806
・5764)へ。